

日本遺伝学会男女共同参画推進委員会企画  
「男女共同参画フォーラム」

日本遺伝学会第 93 回大会の初日、2021 年 9 月 8 日に「男女共同参画フォーラム：みんなで支えよう、女性の社会進出と男性の家庭進出」が zoom で開催されました。参加者は 66 名、うち女性は 27 名でした。例年、男女共同参画の企画は年会の昼時間にランチョンセミナーとしての開催でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症対策のため学会自体がオンライン開催となったため、zoom と slack を利用したオンラインフォーラムとして行いました。

岩崎博史会長のご挨拶に続いて、男女共同参画推進委員会会長の一柳氏より今回の年会参加者に対するアンケート調査の結果の概略の説明がありました。前年度と比較すると、女性教員の参加割合は増えてはいるものの、博士課程の学生参加数における女性割合は低下していたこと、若手ポストドク層の参加者数が男女共に少なかったこと、特に 30 歳代の参加者が少なく女性比率は 0 であったことなどの報告がありました。学会としてもセッションリーダーなどに女性を積極的に起用するなどのアクションが引き続き必要との認識を示しました。

続いて以下のプログラムで会が進行されました。

- (1)男女共同参画って、女性が働きやすい職場環境をつくるだけで、ええんかいな。  
一柳健司氏（名古屋大学教授、日本遺伝学会男女共同参画推進委員会 委員長）
- (2)データから考える、女性の社会進出と男性の家庭進出の課題  
～緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査、大規模アンケートの結果から～  
志牟田美佐氏（東京慈恵医科大学講師、生理学会男女共同参画推進委員、男女共同参画学協会連絡会アンケート調査実行委員）
- (3)フリートーク 参加者を含めてのフリートーク企画（zoom のチャットや slack などを用いた意見交換など）

一柳氏は、研究者として、研究者の配偶者として、父親としての様々な経験を交えながら、男性側の意識改革が女性の社会進出には不可欠であることを話されました。志牟田氏からはコロナ渦における研究者の実態調査についてご紹介いただきました。「研究に費やす時間が減少した」「研究遂行に対して不安を感じている」と回答したのはどの家族構成においても女性の方が多かったこと、女性の社会進出と男性の家庭進出への理解が大切であることの具体的データをお示しいただき説得力のある内容でした。

（文責 大野）